

## 中学校 社会科 部会

部会長 福智町立金田中学校 校長 白石 俊幸

研究員 香春町立香春中学校 教諭 村上 裕一

実践者 川崎町立鷹峰中学校 教諭 玉井 正次郎

### 1 研究主題

思考力・判断力・表現力を高める社会科教科指導の工夫

### 2 主題設定の理由

#### (1) 社会の要請から

新学習指導要領での社会科の目標は、「国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」ことである。その目標実現のために、社会的事象に関心をもって多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させることが求められている。現代社会が、情報化や国際化により急激に変化し多様化している中で、これからの社会を担っていく子どもたちには、社会的事象を単なる知識として丸暗記するだけにとどまらず、知識を活用し、自分の考えを持つ力、またそれらをまとめ表現する力が必要である。以上の理由により、生徒の思考力・判断力・表現力を高めることが必要であると考え、本主題を設定した。

#### (2) 生徒の実態から

生徒を取り巻く家庭環境・教育環境も、必ずしも恵まれているとは言えない状況にあり、平成26年度の福岡県学力実態調査の結果によると、筑豊教育事務所管内の平均正答率は、県全体に比べ「知識」では、5.9ポイント、「活用」では、3.3ポイント低くなっている。また、県全体の「活用」に関する問題の平均正答率は、期待正答率を18.6ポイント下回っており、思考力に関わる社会的事象の特色をつかんだり、因果関係をとらえたりすることが苦手であると考えられる。

以上の理由により、生徒の思考力・判断力・表現力には課題があり、効果的に高めていく必要があると考え、本主題を設定した。

### 3 主題の意味

「思考力」とは、ある社会的事象がその他の様々な社会的事象とどのようにつながっているのかを推理し、追求する力であると考えられる。

「判断力」とは、社会的事象を様々な視点から見つめ、その社会的事象の価値に対する自分の考えを持つ力であると考えられる。

また、社会的事象に対する価値判断を行うためには、様々な思考活動で社会的事象を把握することが必要不可欠であるため、「思考力」と「判断力」は相互に作用しあうことで高まっていくと考える。

さらに、「表現力」とは社会的事象に対して思考・判断した結果を、文章等でまとめ、伝える力であると考えられる。

#### 4 研究の目標

資料から読み取ったことをもとに自分の考えを記述する活動と、他者との意見交流を行う活動を通して、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

#### 5 研究仮説

学習過程において、次のような手立てをとれば、思考力・判断力・表現力の向上につながるであろう。

- 資料をもとに、自分の考えをまとめ、記述する活動に取り組みさせる。
- 他者との意見交流を通して、自分の考えを再構築させる活動に取り組みさせる。

#### 6 研究の計画

(1) 単元名 幕府政治の改革と農村の変化

(2) 指導観

- 本単元は、江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策、身分制度の確立及び農村のようすなどを通して、江戸幕府の政治の特色を考えさせ、幕府と藩による支配が確立し260年近くの安定した支配が確立したことを理解させることを目標としている。豊臣政権がおこなった兵農分離や身分統制令などの政策により、実力を持ったものが社会を動かす流動的な時代から、戦乱時代を通じて再構築された新しくつくられた社会秩序を固定化し、維持することにより社会の安定化を図っていった。そして、こういった政策の延長線上に、江戸幕府の大名統制や身分制度の確立があった。江戸幕府の大名統制は、武家諸法度などで大名を統制をするが、その領内の政治の責任を大名に負わせ、幕府は直接干渉しない。また、身分制度を確立して、それぞれの身分やその中での地位を固定化し代々受け継がせる。さらに、それぞれの身分の中で人々が職分を果たすこと、例えば、百姓が幕府や藩の経済を支えているため、細かい決まりを定めて百姓を統制し、百姓が年貢役や夫役を果たすことを要求するが、果たしていれば百姓の自治組織に任せ細かいところまでは武士は干渉しない。さらに、それぞれの身分ごとに固まって暮らせることにより、身分間どおしの交流をできるだけ持たせないようにした。この身分制度によって、それぞれの「身分らしさ」を要求され「身分らしさ」からはみ出さない限りは、干渉されることがなかった。「身分らしさ」が求められ、それぞれの身分同士が干渉しないことにより、社会の流動性がなくなっていった。そのことが、幕府と藩の支配のもと大きな戦乱のない200年近くの安定した支配が確立した。しかし、社会の流動性を少なくし固定化したことにより社会は安定化していったが、身分制度の中で百姓・町人から排除する被差別民への差別意識も固定化されたことにより、日本人の心の中に根深くそういった人々への差別意識が残っていったこともしっかりと考えさせていきたい。
- 本学級の生徒は、男子15名、女子11名の計26名である。男子は全体的に落ち着きのない生徒が多く、女子はおとなしい生徒が多い。学力があっても積極的に発言する生徒は少なく、発言をする生徒は2～3名である。歴史の事前アンケートで、歴史について、好き又はどちらかといえば好きと答えた生徒は17名であり、どちらかといえば嫌いと答えた生徒は6名であった。好きと答えた生徒は、歴史上に好きな人物がいたり、色々なことがわかっておもしろいと答えたりして歴史に関心をもっている生徒のほか、わかったら楽しいと答えた生徒もいた。どちらかといえば嫌いと答えた生徒は、昔のことに関心がなかったり、難しい漢字や覚えることが多いからと答えていた。歴史の授業にあたっては、視聴覚教材などを使い関心をもたせたり、一問一答などを使いながら基礎・基本の定着を図ることをおこない、わかる授業を心がけてきた。しかし、まだ十分には生徒の意欲を引き出すような授業はできていない。江戸時代の身分制度についての事前アンケートでは、23名中17名の生徒が答えることができなかった。また、時代劇等もテレビで見る機会も減ってる中、江戸時代のようにすについてイメージできる生徒はほとんどいなかった。

- 本単元の指導にあたっては、①～⑧を指導の重点とする。
- ① 質問形式の問題や視聴覚教材を使い、江戸時代に対するイメージをもたせ、豊臣政権の既習知識等も思い出させながら、今とは違う江戸時代の社会のようすを理解させるとともに、制度化された身分制度が200年以上に渡って続いたことで培われた差別意識が今にも残っていることに気づかせたい。
- ② 既習知識から豊臣政権によって太閤検地や刀狩りによって兵農分離が進み、住む場所や職業が固定化されたことにより、武士の生活は百姓に支えられないと生活できなくなったことを考えさせる。また、支配する身分として特権を与えられるが、武士身分の中でも地位が固定化したことを理解させていく。
- ③ 江戸時代の身分についての質問を考えさせることにより、身分が職業ではなく住んでいる場所で決まったことに気づかせる。
- ④ 農村の様子を予想し質問を考えさせることにより、江戸時代の農村のイメージを持たせる。そして、視聴覚教材も使いながら、身分制度の具体的なようすをつかませていく。
- ⑤ 身分を誰が決めたのかを考えさせることにより、武士が年貢確保のために細かいきまりは出すが、村の運営にあたっては、中世から続く村の自治組織を利用して、あまり干渉しなかったことを理解させる。
- ⑥ 身分制度が幕府によって制度化されるとともに百姓の共同体意識の強まりで異質なものを排除する意識が重なり差別がつけられ、特定の人たちへの差別意識が植え付けられたことに気づかせる。
- ⑦ 排除された人々の生活を具体的に見ていき、それらの人々が差別に負けず、差別と闘う姿を通して、差別の不合理に気づかせる。
- ⑧ 社会の中でつくり出されてきた差別意識が、現在まで残っている事実を考えさせ、しっかりと科学的知識をもち、差別を見抜き、差別を許さない、差別と闘いなくしていく力を持つことが大切であるという意識を持たせる。

(3) 単元目標

- 江戸時代の身分制度の社会のようすを理解することができる。(知識・理解)
- 差別がどのようにつけられたかに関心をもち、差別を許さないという態度を身につけることができる。(関心・意欲・態度)

(4) 単元指導計画

時数	学習活動・内容	評価規準	評価方法
1 本時	江戸時代の身分制社会のようすについて知ろう	身分制度を利用した武士の民衆支配を理解することができる。 (知識・理解)	学習プリント
1	身分制度が日本の社会に及ぼした影響について考える	さらに差別された人々について学び、差別を許さないという態度を身につけている。 (関心・意欲・態度)	学習プリント

7 授業の実際

(1) 主眼

- 江戸時代の身分制社会のようすについて理解することができる。
- 武士がどのようにして年貢の確保を図ったかを、村のしくみの学習を通して理解することができる。

(2) 本時の主眼を達成させるための言語活動の位置づけ

言語活動 1 百姓の生活を既習知識を使いながら予想し、自分の意見を出し合う中で、本時の学習の関心を高めさせる。

(3) 準備 教科書 学習プリント DVD

(4) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
<p>1 江戸時代にはどんな人たちがいたかを考える。</p> <p>2 江戸時代の社会とはどんな社会だったかを考える。 —めあて— 江戸時代の身分制社会について知ろう</p> <p>3 江戸時代の身分について考える。 ・質問の答えを予想する。</p> <p>4 江戸時代の農村の様子を予想する。 —言語活動1— (1)自分の考えをプリントに記入する。 (2)他の人の考えを聞く。</p> <p>5 江戸時代の社会のようすについて考える。 ・質問の答えを予想する。</p> <p>・兵農分離がどのようなものであったかを思い出すためにDVDを見る。 (5分)</p> <p>・誰が身分を決めたのかを考える。</p> <p>・室町時代から続く村の惣とよばれる自治組織を利用して、農村支配をしたことを理解する。</p> <p>6 まとめ</p>	<p>○ 色々な人がいたことを絵からイメージさせる。(資料1)</p> <p>○ 教科書のグラフから身分があったことに気づかせる。</p> <p>○ 住む場所で身分が決まっていたことに気づかせる。</p> <p>○ それぞれの身分が「役」を負担することで成り立っている「身分制社会」であったことを説明する。</p> <p>○ 選んだ理由を簡単に書かせる。理由を発表させ他の人の意見を聞くことで農村の様子について関心をもたせる。(資料2)</p> <p>○ 質問を考えさせることにより、江戸時代の社会のイメージをもたせる。 ・身分の固定化により、他の身分にうつることや身分間の交流がなかったことに気づかせる。</p> <p>・武士身分と百姓・町人身分では差別があったが、百姓・町人身分間では差別がなかったことに気づかせる。 ・それぞれの身分の中にも上下関係があったことに気づかせる。(資料3)</p> <p>○ 村や町の住民が決め、武士が決めていたわけではない。なぜ、そんなことができたのかを考えさせる。</p> <p>○ 幕府収入の内訳(資料4)から年貢納入の大切さに気づかせる。</p> <p>○ 村の支配のしくみ(資料5)から武士の農村支配のようすを読み取らせる。</p> <p>○ 武士が決めたのは、住むところや職業を固定し、身分を固定したが、身分を最終的に決めたのは、その地域に住んでいる人々であったことに気づかせる。</p>	<p>グラフを読み取ることができる。</p> <p>職業ではなく、住む場所で身分が決まっていたことに気づくことができる。(プリント)</p> <p>資料から村の支配のしくみを読み取ることができる。 (プリント)</p>

## 8 成果と今後の課題

### (1) 成果

- 系統的に学習内容を整理できるように学習プリントに一問一答や選択問題など、生徒が課題に取り組みやすい工夫をしたことによって、社会的事象に対しての自分の考えや、学習内容のまとめをプリントに記述することが出来ていた。
- 適時に、視聴覚教材を活用することにより、学習内容を具体的にイメージすることが出来、社会的事象に対して自分の考えをもつことが出来ていた。

### (2) 課題

- 言語活動を重視した授業を構築するために、学習プリントを活用したが、学習内容を整理し、自分の考えをまとめ、記述する力と、他者に説明する力は、個人差があり、各個人に対応することが難しい部分であった。思考力・判断力・表現力を充実させるためには、考えをまとめ記述したり、他者に説明したりする際、基礎的・基本的な知識・技能が不可欠である。今後、思考力・判断力・表現力を育成する取り組みと平行して、基礎的・基本的な知識・技能を習得する取り組みも充実させていきたい。